資料２

■第３回市民対話（協働・拡張ＷＳ）・第４回市民対話の報告

１．全体の進め方と各回のテーマ

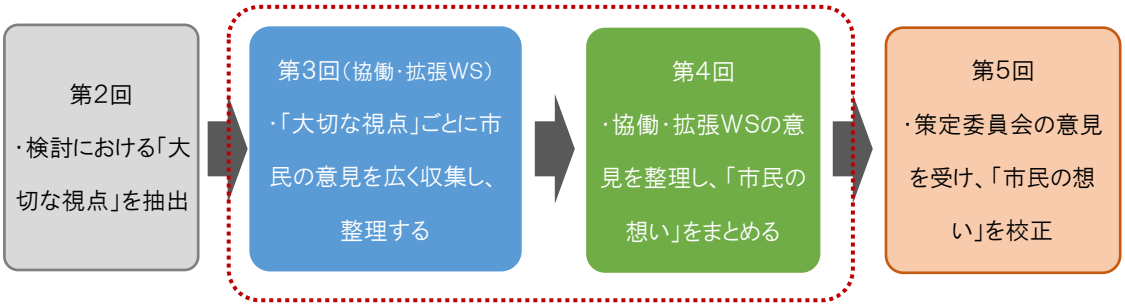
第1回　6/11（土）　顔合わせ、本庁舎整備方針に関する基礎情報の共有、現本庁舎の見学

第2回　9/3（土）　本庁舎のあり方を考えるうえでの「大切な視点」を定める

第3回　10/10（月）「大切な視点」ごとに市民の意見を広く収集し、整理する

第4回　10/30（日）「市民の想い」として意見をまとめ、策定委員会に共有する資料をまとめる

第5回　12/4（日）　策定委員会のフィードバックをふまえ、「市民の想い」を校正する



２．開催概要

１）第3回市民対話（協働・拡張ワークショップ）

日時：平成28年10月10日（月・祝）

会場：鎌倉市役所　第３分庁舎１Ｆ　講堂

参加者：延べ57人

【参加者の内訳】

・市民対話メンバー＊1（延べ14名）

・公募市民（延べ31名）

・神奈川大学で建築・都市計画を学ぶ学生（延べ12名）

＊１　本市が無作為に抽出した市民と市内の高等学校（10校）・大学（鎌倉女子大学）に通う市内在住の生徒・学生のうち、市民対話に参加を希望された人

表　地域別参加者数（神奈川大学生除く延べ45名）

地域	鎌倉	腰越	深沢	大船	玉縄
参加者数	15名	3名	10名	12名	5名

（平成 28 年 11 月 22 日委員会資料）

資料２

テーマ：「大切な視点」ごとに市民の意見を広く収集し、整理する

午前の部「未来の本庁舎にあなたが求めるものは何ですか？」

Part1.　【説明】第2回市民対話の内容を共有

Part2.　【対話】現市役所（本庁舎）に関する印象

Part3.　【対話】現市役所（本庁舎）に関する印象（参加者がテーブルを移動して意見交換）

Part4.　【対話】新しい役割の定義：「未来の本庁舎には〇〇〇であって欲しい」

説明

対話（グループワーク）

発表

午後の部「現在の本庁舎の場所にあったらいいと思うものは何ですか？」

Part1.　【対話】現本庁舎の場所についての印象

Part2.　【説明】情報提供：他市町村の事例を紹介

Part3.　【対話】現本庁舎の場所にあったらいいなと思うもの。起きてほしいこと。必要な機能。

Part4.　【対話】あなたならここにどんな施設をつくりますか？

（名前、建物の雰囲気、含まれる機能、これまでとの変化など）

情報提供

対話（グループワーク）

発表

（平成 28 年 11 月 22 日委員会資料）

資料２

2)第4回市民対話

日時：平成28年10月30日（日）

会場：鎌倉市役所　第４分庁舎822会議室

参加者：市民対話メンバー7名、神奈川大学学生3名

テーマ：「市民の想い」として意見をまとめ、策定委員会に共有する資料をまとめる

Part1.　【個人作業】協働・拡張WSの成果を読み込む。共感度の高いメッセージに印をつけていく。

Part2.　【全体ワーク】編集会議１：３つのパートごとに、中核としたい記事を選抜していく。何が中核メッセージとなるべきかを皆で合意していく。

・現在の本庁舎と本庁舎のある場所

・本庁舎のあるべき姿

・現本庁舎の場所で起きてほしいこと

Part3.　【グループワーク】ヘッドライン：見出し「ヘッドライン」を班ごとに検討する。

Part4.　【全体ワーク】編集会議２：各班の成果をすべて一覧し、全体としてのバランスを全員で確認していく。

個人作業

グループワーク

全体ワーク

（平成 28 年 11 月 22 日委員会資料）

資料２

３．「未来の本庁舎への市民の想い」の整理

第３回市民対話で出された意見を踏まえ（参考１：ｐ８参照、参考２：ｐ12 参照）、「未来の本庁舎への市民の想い」として、第４・５回市民対話で整理する。

第４回市民対話では、「未来の本庁舎への市民の想い」を次の３つのパートで構成し、各パートのヘッドライン（見出し）と、具体的な市民の想いを整理した。

１）パート１： 現在の本庁舎と本庁舎のある場所

（1）ヘッドライン

①古くて暗くてもったいない。良いのは場所だけ、が共通した意見。

②ヘッドラインを、「暗い（Ｋ）、もったいない（Ｍ）、キケン（Ｋ）、利用しない・レア（Ｒ）」とすれば、鎌倉のアルファベットと一致する

③良い点、活かしたい視点

・落ち着いて周辺の景観と溶け込んでいる

・中心部で鎌倉らしい場、アクセスが良い。

（2）市民の想い（認識）

〇現在の本庁舎の雰囲気、日常の関わり

・困っている人に親切ではない

・何となく暗い（雰囲気、分かりづらさ）、近づきづらい

・議場のハードが古い

・単に手続きをする場

・仕事では来るが市民としては来ない

・執務環境の悪さ（一人当たりの狭さやゴチャゴチャ感につながっている）

〇本庁舎のある場所の土地利用、景観

・もったいない（土地の使い方、駐車場が多い）

・交差点からの眺めが悪い（交番や樹木が視線を邪魔している）

・本庁舎の高さが景観を邪魔している（損ねている）

〇本庁舎のある場所の印象

・鎌倉の中心地にある

・災害対策本部にはなりえない

・観光に対するサービスが見えない（インフォメーションセンターなど）

（平成 28 年 11 月 22 日委員会資料）

資料２

２）パート２： 本庁舎のあるべき姿

（1）ヘッドライン

① 災害に強い場所であるべき（災害にも強い能力がある場）

② 変性があるべき（持続性がある、将来にも対応できる場）

③ 市民活動を育てる場でありたい

④ 働きたい魅力ある職場、明るい職場

⑤ 手続きの場から相談できる場

※「もっと来てもらえるように」というニュアンスでまとめる

※未来の本庁舎に求めること：行きやすさ、用事がはっきりしてなくても行ける

（2）具体的な市民の想い

〇ハード面

・市役所は（市民利用施設等）複合化してもよい

・将来フレキシブルに使えるようにした方がよい

・議会は現在地に残すかどうか？

〇ソフト面

・文化を発信するところであるべき

・コミュニティのシンボルとなるものが良い

・市民生活のありのままを発信できるようにしたらどうか

〇機能分担（ハード面とソフト面の中間となるもの）

・市庁舎は共有財産である

・本庁舎の機能は変化している、市民サービスを重視

・手続きから相談できる場所へ変えていく

・困っている人に対応することが大切

・市民の窓口と業者の窓口は、場所が分かれてもよい。

〇条件

・市のビジョン・統計データが大切。合併・人口減少も考慮した配置に。

（20 年後の人口予測：鎌倉地域 4.6 万人。大船地域 4.3→4.3 万人、腰越地域 2.5→2.1 万人。）

・費用が掛かることも考えて、検討すべき。

・働きたいと思う魅力、職員のモチベーションアップ。

・災害対策、安全な場所

（平成 28 年 11 月 22 日委員会資料）

資料２

３）パート３： 現本庁舎の場所で起きてほしいこと

（1）ヘッドライン

『ぶらっとうらかま』

〇シンプルで誰でも受け入れられる表現なので良い。

〇「うら」という表現も一見ネガティブなイメージだが、若い世代から見ると「裏原」のように通な人が足を運ぶというようなポジティブなイメージがある

〇「市民と使っていく＝うらかま」となればまとめとしては良いのではないか。

〇「うらかま」の表現はひらがなで。「裏」と「うららる（集まる）」が繋っている

■ヘッドラインの考え方

・うらかま（西口）は市民の中心

・落ち着きのある雰囲気を活かし、観光客よりも市民が来やすい空間であるべき。（観光客→東口、市民→西口）

・市民を呼び込むイベントができる場づくり

・行政機能＋αで、市民が行ってみようと思ってもらえるように

（2）具体的な市民の想い

〇特に共感できる意見

・「うらかま」の雰囲気の良さを活かす

・市民活動を活性化する所になってほしい。

・市民の趣味や活動の場として、図書館や体育館、文化・交流機能などがあると良い。

・ぶらっと立ち寄れる居心地の良い場所になると良い

・市役所通り沿いの民間活用は共感できるが、時代の変化に合わせて対応できるフレキシビリティが必要である。利用する価値のある場所づくりが必要

・他の地域にも支所がある。この敷地でも鎌倉地域での支所的機能は必要である。また、鎌倉地域の支所は、市全体の行政機能としての中心的な役割を担うべきである。

（平成 28 年 11 月 22 日委員会資料）

資料２

○「うらかま」の雰囲気の良さを活かす

・西口側を地元の年配世代は「裏駅」と言っている。

・シビックエリアの落ち着きある雰囲気やみどりが、来てホッとするイメージを生んでいる

・「うらかま」のキーワードを売りにし、鎌倉に何度か来た通な人が集まれるまちにする

○市民活動の場

・市民活動を活性化する所になってほしい

・ぶらっと立ち寄れる居心地の良い場所になると良い

○文化発信機能

・文化を発信するところにできると良い

・鎌倉街道の中心であり、歴史や文化の価値を活かせると良い

・文化教育機能を持たせてはどうか

・図書館や御成小学校と一体となった文化的・学術的なエリアとしての使い方があるのではないか

○民間活用

・市役所通り沿いを民間活用する意見に共感できる。時代の変化に合わせて対応できるフレキシビリティが必要である

・公共施設の床を民間に貸すことも考えられる

・現況法規制では現敷地での高層化は難しいが、経済活動を生む使い方をしていくべきではないか。

○具体的な空間の使い方

・休憩でき、滞留を生むベンチや、悪天候時でも利用できる屋根のある公園が適している

・鎌倉野菜を売ったり、市民が集まって交流を生んだりするまちの駅的なマルシェ

・観光客向けの機能があっても良い。様々なアクティビティが生まれ、市民と観光客の会話や交流による化学反応が起こる機能が良い。

○その他

・御成小学校との一体的な活用方法も合わせて検討してはどうか？

（平成 28 年 11 月 22 日委員会資料）

資料２

■参考１：「未来の本庁舎への市民の想い」

（第３回市民対話（協働・拡張ＷＳ結果の整理））

1　現在の本庁舎、および本庁舎のある場所についての認識

1.1　本庁舎のある場所の印象

1.1.1本庁舎がある場所には、とても良い印象がある。駅に近く、鎌倉の中心にある便利な一等地で、市民へも観光客へも情報発信できる場所。

1.1.2本庁舎のある場所は、古都鎌倉としての佇まいが上品に残っている。隣に御成小学校のレトロな木造建築、周りも緑に恵まれている場の雰囲気は、とても素敵。

1.1.3東口を鎌倉観光の表玄関とするならば、西口は「裏駅」。いわば、地元の生活者と鎌倉ツウの観光客のための裏玄関。

1.1.4一方で、人口分布を考えると、現在の場所は鎌倉の中心とは言えない。本庁舎が旧市街にあることで、新市街への意識が弱くなっている可能性はないだろうか？

1.2　今の本庁舎、役所の印象

1.2.1場所への印象が良い一方で、本庁舎への印象はさほど良いとは言えない。手続きで必要がある時だけ訪れる、「何となく暗い雰囲気」の場所。

1.2.2「何となく暗い」印象は、建物の外観・内観だけから来るわけではない。窓口が分かりづらかったり、大勢の業者の人が出入りしたりしているため、馴染みのない市民には、本庁舎が「取っ付きづらい」こととも関連している。

1.2.3だから、困りごとがあっても、解決策や相談先が明確でない人の居場所や行き先がなく、市民が歓迎されているとは感じられない。

1.2.4けれども、職員の働く環境に目を転じると、少し同情してしまう。面積は狭そうだし、資料がそこかしこに雑然と置かれ、働く環境としては気の毒と思う。

1.2.5また、防災拠点として考えると、とても不安が残る。現在の本庁舎は津波の浸水地域に建っており、老朽化もしていて、いざという時に司令塔

（平成 28 年 11 月 22 日委員会資料）

になれるのだろうか？

2　本庁舎のあってほしい姿

2.1　本庁舎の機能は分散していてよい

2.1.1行政機能、市民サービス機能、議会や市長の部屋など「本庁舎の機能」にはさまざまな側面がある。すべての機能を一箇所に押し込もうとすると、場所や景観などの制約に阻まれる。たとえば、「機能」と「場所」を組み合わせて考えると良いのではないだろうか。

2.1.2とくに、市民生活のための場と、行政機能の場を分けると考えやすいかも。行政機能の多くを御成の一等地に置いておくのは「もったいない」かも。むしろ、市民が集う、集まるための機能を御成に置いてほしい。

2.1.3そう考えると、行政機能を持つ総合庁舎がどこかにあり、手続きなどは各地域の支所やコンビニで済ませ、御成には市民サービスや集う場がある。そんな棲み分けがあってもよいのかも。

2.1.4一方で、「伝統のある御成にこそ行政機能や議会を残してほしい」という少数の声も。

2.2　鎌倉市･市民のシンボルとしての市役所

2.2.1どこにあるとしても、本庁舎には「鎌倉らしさ」を体現してほしい。「鎌倉らしさ」は人によっても異なるけども、たとえば緑・自然を活かして調和する、歴史や気品を感じさせる、観光客など外の人へも「おもてなし」を感じさせること。モダンすぎる 20 階建てのビルなんていうのは、あまり鎌倉らしくない。

2.2.2来賓への「おもてなし機能」は、歴史を感じさせる鎌倉の中心にあっていいのかも。

2.3　市民のための場として

2.3.1集まって楽しいところにしなければ、文化は生まれない。だとすると、行政機能の集約する「本庁舎」とは別に、市民サービス性の高い「シティ・ホール（市民のための場)」があってほしい。

2.3.2市民が集う場所は、気軽に集まりたくなるような仕掛けがあってほしい。たとえば、ホールや野外ステージ、市民集会用カフェや公園・オープン

スペース、若者のちょっとした遊び場など。

2.3.3そして、緑や自然と調和していて、歴史ある鎌倉を象徴して、おもてなしを感じさせてほしい。それは、「鎌倉らしさ」をもっとも体現する場所。

2.3.4そう考えると、これらが今の本庁舎がある御成に求める中心的な機能なのかも。

2.4　行政機能の集約する場所として

2.4.1市民から見た時に、何か困った時の駆け込み寺のような、市民に寄り添ったサービスが提供される、立ち寄る意義のある場であってほしい。たとえば、健康増進、介護、医療、障害者支援、高齢者福祉などの「暮らし支援」に関する総合サービスセンター。

2.4.2災害発生時は、ここが対策本部、司令塔となる。だから、この機能は災害に影響を受けづらい場所にあり、できればヘリポートなども完備した「災害に強い本庁舎」でなければいけない。

2.4.3市職員がもっとも多く働く場所になるので、市民や訪問者から見て「そこで働きたい」と思えるような働く環境であってほしい。

2.4.4そう考えると、これが御成以外の災害に強い場所に求める「本庁舎機能」なのかも。旧市街でなく、新市街に立地することで、新市街の生活者への意識が高まったり、逆に鎌倉の歴史を再認識したりする効果もあるかもしれない。

2.5　窓口手続きする場として

2.5.1多くの市民にとって、本庁舎を訪れる理由は「各種手続き。」だけども、手続きのほとんどは、御成でも本庁舎でなくてもできること。これらは、自宅や職場の近くでできたり、時間を問わずできたりするととても便利。

2.5.2そう考えると、これらの手続き業務は、各地域の支所や、将来はコンビニで済ませられればとても便利。「市役所が近くに来てくれる」イメージ。

3　本庁舎の場所にあったらいいもの

3.1　市民が集い、交流し、学び合う場

3.1.1今の場所の良さ（便利で、歴史を感じさせ、周囲の緑とも調和）を考えると、広場的な機能を持つ市民が集える場であってほしい。

（平成 28 年 11 月 22 日委員会資料）

3.1.2前述のホールや野外ステージ、市民集会用カフェや公園・オープンスペース、若者のちょっとした遊び場などの仕掛けや、ちょっと休めるベンチ。日陰を配置するのも大事かも。

3.1.3「市民が訪れる理由」を学びの場としてデザインできるのではないか。たとえば、中央図書館、御成小学校、現本庁舎の場所までを大きなつながりとして見立てて、子どもから大人までオープンに使える「全世代の学びの場」として位置づける。

3.1.4博物館、映画館、図書館、集会室、研修室なども含めた、総合的な社会教育機能を持たせて、学生からお年寄り、外国人までが鎌倉や日本の歴史を気軽に学ぶ場所。ハードだけでなく、社会教育関連の活動（ソフト）が日常的にあることで「鎌倉留学」が気軽にできる

3.2　観光発信機能を持つ「うらかま（裏鎌倉）」

3.2.1前述の通り鎌倉駅西口は、地元の生活者と鎌倉ツウの観光客のための場所でもある。いわば、生活感をあえて感じさせ、鎌倉に滞在する、住まう、暮らすことをイメージさせる場所。生活者と訪問者の接点となるような場であってほしい。

3.2.2たとえば、鎌倉の「食」を発信し、体験できる食堂の様な機能があれば、生活者も訪問者も鎌倉を体験できる。

3.2.3ツウの観光客へは、東口より静かであることを活かし、休憩場所や座る場所（BENCH PARK）を提供する。

3.2.4市役所通りを民間に貸与して、（旧）市役所どおりに「新文化発信ストリート」とし、新しい文化を発信する機能をもたせることも考えられる。

3.2.5学びの場でもあることを考えると、中世から近代、そして現代の鎌倉の魅力を伝える館や、鎌倉文化体験ができるような宿泊施設もあると、相乗効果が望めるかも。

3.3　いざという時の一時避難場所

3.3.1地震や津波発生時は、住民に加え、西口周辺を訪れている市民や観光客を速やかに守れなければいけない。司令塔（本庁舎）は別の場所にあるとするなら、大切なのは「その場にいる人が速やかに避難できる場所」を提供できること

（平成 28 年 11 月 22 日委員会資料）

資料２

■参考２：「未来の本庁舎への市民の想い」（第３回市民対話（協働・拡張ＷＳ結果の一覧））

【午前の部】　「未来の市役所・本庁舎にあなたが求めるものは何ですか？」（未来の市役所・庁舎に求めるもの）

テーブル		A	B	C	D	E
基本コンセプト／キーワード等		「市役所は鎌倉市民のシンボルとなるべき」	「市庁舎は分散」	「小規模な駅近の本部と大規模な総合分庁舎」	あるべき市庁舎像は何であるかを議論すべきである	「オール鎌倉の交流」
現敷地について	使い方	**■この場所は行政機能よりも市民のためにあるべき** ⇒市民生活のありのままを発信する場所	－	**■市民が集う、来賓をもてなす本部機能** ⇒市民が気軽に集まりたくなるような場所 ⇒おもてなし機能（利便性が重要。駅から近く、鎌倉の文化的施設と近接）	**■「市の象徴となるべきもの」は必要** ⇒今の庁舎の戦後昭和モダンのデザインを残す	・手続きだけのお役所機能はこの場所でなくてもよい
	残す機能	⇒市民生活のための場、行政機能の場を分ければいい	・現市庁舎の１階＋観光情報発信機能が残ると良い	⇒来賓接遇スペース、市長室 ⇒観光系、商業系の部局	・この建物を庁舎以外で利用しても良い ・主な行政機能を残す	
市民機能		**■市民が集まれる市役所にしてほしい** ⇒市民空間等、総合的な機能	・市民が集まりやすい場 ・図書館や博物館などの文化を発信する場（御成小学校の講堂も活法してはどうか） ・立ち寄る意義のある場 ・市民フォーラム（ホールや野外ステージ）	**■何かあったらここにくる、すべてが揃う大分庁舎機能** ⇒何か困ったときの駆け込み寺 ⇒健康増進、介護、看護、地域総合医療、生活支援、障害者支援、高齢者福祉などの「暮らし支援」に関する統合サービスセンター	**■鎌倉らしさを活かして、使われる施設とする** ⇒緑を活かし、市民が気軽に集まりたくなるような場所 ⇒窓口業務は近く、サービスは重要	**■市民が気軽に集まれる市役所にしてほしい** ⇒集まって楽しいところにしなければ文化は生まれない
執務環境		・整然としたオフィス環境	－	⇒皆がそこで働きたいと思う魅力的な職場	・魅力的な職場であることも大切	－
議会		・議会は別の場所でもいいのでは	－		・議会は分散しない方がよい	－
防災性		**■災害からの安全性も必要** ⇒強い場所に建てるべき ⇒情報発信機能	－	**■大型ヘリポート、テントスペース** ⇒災害に強い場所（災害発生時の司令塔・対策本部）	・災害発生時の司令塔・対策本部は安全な場所がよい	**■災害時の拠点機能を担う必要性が高い** ⇒地道な災害対策 ⇒観光客をどう守るか
建物のデザイン		**■文化・歴史・景観に配慮した建物のデザイン** ⇒古都鎌倉にふさわしく ⇒景観にも配慮	・遺跡が見えるような仕上げ		－	**■市民意識や古都らしさを大切にする** ⇒緑や自然と調和 ⇒アクティブに市民の動きがわかる、感じられる

（平成 28 年 11 月 22 日委員会資料）

資料２

【午後の部】　「現在の本庁舎の場所にあったらいいと思うものは何ですか？」（この場所はどんな場になってほしいか）

テーブル	A	B	C	D	E	F
基本コンセプト／キーワード等	■「うらかま（裏鎌）」 一見さんは表。うらかまは鎌倉をよく知るリピーターが集う。二度目の鎌倉。鎌倉に滞在する、鎌倉に住まう、鎌倉で暮らすことをイメージしてもらい、定住を促進する。生活者と交流者の接点となる場。	「活動の自由度が高い広場空間を中心としつつ、中世～近代の鎌倉の魅力を伝えられる機能」	「歴史」「（全ての人々のための）公園」	観光行動との共存	「地域に開かれ、やることが限定されずに暮らしが楽しくなる場所」	「古都鎌倉を象徴し、社会教育機能を発揮する場」
議会		・鎌倉支所と市議会場にする	－	－	－	－
市民サービス機能	■全世代にとっての学びの場 ⇒現中央図書館、御成小学校、現本庁舎を一つの大きなつながりとして見立てて機能を再編し、新中央図書館を中心とした「子どもから大人まで、市民も交流者にとっても、オープンに使える『学びの場』として位置づける。」	・鎌倉地域で本庁舎を大きく建替える必要はない	■市民のための機能:「市民生活を支える行政機能」 ⇒行政サービス機能、税機能、都市（建築）機能 ⇒シルバー対応や福祉、健康のための機能 ・図書館	・地域の行政センター ・学習・自習できる図書館	－	■学習・自習する場 ■人が集まる場（市民） ⇒社会教育関連 ・社会体育機能（健康増進ジム、プール、体育館…） ・社会福祉機能（保育所、デイケア、保健所…）
歴史・観光発信機能		■「鎌倉に国立博物館」 ⇒歴史（建物、遺跡）、自然、観光情報の発信の場 ⇒学会やシンポジウムが開催できるように	■観光客のための機能:「広く鎌倉を知る場」「鎌倉にしかない、オンリーワンの場」 ⇒歴史都市鎌倉をPRする ⇒学ぶ→回遊を促す場所に	－	・市内が展望できる場所 ・ちょっと田舎な感じやリゾート的な感じのある場 ・金沢２１世紀美術館のような雰囲気の場	■人が集まる場（観光客） ⇒観光客向けのイベント（歴史の展示や物産展）ができる場
公園・休憩スペース	■居場所としてのシンボル ⇒お金を使わなくても、ちょっと休める、座れる、買ったものを食べられる ⇒日陰を配置する ⇒October Fes.、鎌人いちば ⇒若者のちょっとした遊び場。3 on 3 などができるバスケットコート	■「ＢＥＮＣＨ　ＰＡＲＫ」 ⇒休憩の場、大量ベンチ ⇒観光客の体験、交流の場	・公園、オープンスペース（静かな佇まいを楽しむ都市）	■人が集まる場 ⇒休憩・座る場所	・公園でもよい ・「どうぞご自由にお使いください」という場 ・自然が近く、のんびり感や癒しが感じられる場	■人が集まる場（市民） ⇒広場 ■人が集まる場（観光客） ⇒休憩、座ることができる場
民間活用（不特定）	■新文化発信ストリート ⇒市役所通り沿いを民間に貸与（地べた貸し） ⇒市役所通りは、銭洗弁天へのメインルートでもあり、スタバやPALETAS 鎌倉など、若者を引き寄せる要素がある ⇒新しい文化を発信できるストリートとしてまとめる	－	－	■人が集まる場 ⇒カフェ	・鎌倉の「食」を発信する施設となる、美味しい食堂 ・おいしいコーヒー屋は必要！	■人が集まる場（市民） ⇒カフェ、映画館
地元商業機能		■「『昭和』のお店応援」 ⇒リヤカーのお店が売りに来て昭和の雰囲気に	－	■人が集まる場 ⇒まちの駅、市民発信型産業	・おみやげや物産を売る、まちの駅的な施設	・産業振興機能（地場産品即売、起業支援…）
宿泊施設		■「文化的な宿泊施設」 ⇒歴史資源の移築 ⇒文化体験ができる宿泊施設	－	■人が集まる場 ⇒滞留型ホテル	－	－
防災機能		・災害時に観光客が避難できる場所は必要		■人が集まる場 ⇒退避できるスペース	－	－
その他（御成地区にあるといいもの）		－	－	・映画も上映できる場所	－	－
その他（考え方）	・とくに明確な目的がない人も、フラッと立ち寄りたくなる居心地を目指す	・市内にＮＰＯの活動場所が少ない	－	・観光客は歩くので、週末は市民車両以外の交通規制をしてはどうか ・50 年後を見据え、フレキシブルな使われ方を	・観光客にばかり使われてしまわないようにあえて駐車場はつくらない？	－

（平成 28 年 11 月 22 日委員会資料）